

## 生産性向上と 資源の有効利用を求めて

山本木材株式会社

取締役社長 山本康夫氏

聞き手

北海道木材青年経営者協議会旭川支部

事務局長 上畑正和氏



### 造林・造材から製材へ

上畑 お体の様子は全く快調とお見受けしましたが、いかがですか。

山本 手術を受けてから5年になります、おかげ様で順調に経過しております。とはいっても、この齢での手術ですので、仕事の方は徐々に若い世代にバトンタッチしていきたいと思っています。そこで富良野地区製材林産協同組合長および旭川地方木材協会副会長は、新進気鋭の相田さん（相田木材株式会社社長）に引き継いでいただきました。一方、木材会社の方も、専務に代表権を持たせて任せるようにしています。

いつの時代もそうですが、特に昨今は若い人の発想と行動が必要な時代だと考えます。

上畑 ご趣味は旅行、将棋、ゴルフと伺っております。なかでも旅行が大変お好きのようですが。

山本 そうですね。これまでにスウェーデン、デンマーク、オランダ、オーストリア、西ドイツなど西欧の国々や、アメリカ、カナダ、オーストラリア、中国、さらに台湾、フィリピン、東

ウッドイエジ 1989年10月号



昨年、産業貢献賞、林業功労賞を受けられるなど、地域の林業・林産業の振興に尽される一方、社業の体質改善、技術革新、新製品開発などに取り組み、実績を上げておられる山本木材株式会社に山本社長をお訪ねし、創業の歩みから今後の林材界の展望まで広範にわたり貴重なお話を聞かせていただきました。

南アジアの国々などを見聞してきました。これからはアフリカに行ってみたいという気がしています。最近では、今年6月に山陽国策パルプさんのチップ関係で、家内も連れてヨーロッパに行ってきました。旅行が好きですので、足の効くうちは出掛けたいと思っています。将棋は下手ですが合間をみて指していますし、ゴルフもほどほどに楽しんでいます。

上畑 山本木材さんは、富良野沿線では非常に歴史の古い伝統ある企業と聞いておりますが、ルーツをひとつお聞かせいただけませんか。

山本 先々代の山本一郎は静岡県の出身で、明治26年に渡道したと聞いていますから、今年で94年になります。札幌の知人の紹介で上富良野に来たようです。先代の山本逸太郎が札幌のある木材屋の帳場として働いていたとき、十勝岳の麓に山林を買い、その造林に従事していましたが、それが明治40年と聞いています。マツ角の100石が100円の時代だったそうです。

上畑 私も先代には何度か往年の話をお聞きしました。造材を相当広範囲で行っておられたそ

うですね。

山本 当時は角材の上を歩かないと通り抜けられないぐらい、沿線は木材の山積みだったそうです。沿線にとどまらず三井物産さんの江丹別（現、旭川市江丹別町）の造材現場も請負って流送していたようですが、「一事が万事もうかる時」ばかりでなく、穴を開けた時もあったそうです。その後、仕事は順調にいった、松岡源之助さん（松岡木材株式会社創業者）らと共同造材で成果を上げ、また、斉藤弥三郎さん（斉藤木材株式会社創業者）にも大変お世話になったと聞いています。先代はそのころ青年だったわけですが、大正10年、24才で先々代のもとに造材事業の片腕として加わり、大正12年、帯鋸1台と丸鋸2台で上富良野町に製材工場を創立し営業を開始しました。このころは木材は豊富ですし、関東大震災復興のため大変景気が良かったそうです。

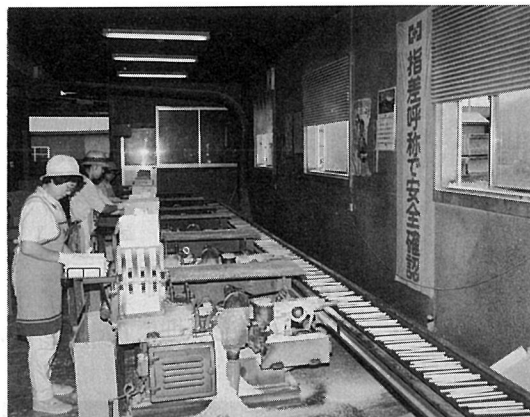
昭和18年、木材統制令が施行され、これに基づき製材工場整備統合が推し進められました。幸運にも当工場は残置工場に指定されました。やがて終戦となり、昭和22年に株式会社山本木工場として法人化し、さらに昭和42年、山本木材株式会社に名称を改めました。

### 運送、サッシ、住宅機器部門に進出

上畑 木材のほか、運送業も永い歴史をもっておられるそうですね。



ドラムローラー



利久箸の製造

山本 昭和18年の木材統制令施行の話に戻りますが、当時、当社は木材のほかに運送業をやっていましたので、指定工場として残ることになったのです。

木材会社より古い山本運送店の方は、軍事非常輸送でしたが、その後、国鉄命令のような形で区間統合となり、昭和17年に日通富良野支店と地域の業者が合併して富良野通運として発足し、初代社長に山本逸太郎が就任しました。

昭和40年代に入って住宅事情が少しずつ変りだしたのに合わせて、合板、サッシ、住宅機器などの販売を開始しました。

### 新製品開発で事業を拡大

上畑 大正12年の創業から今日まで、その時々々の情勢を見極め、設備の拡充、新製品の開発等に取り組まれてこられたと思いますが。

山本 昭和42年、構造改善事業の趣旨にのっとり、東洋木材企業株式会社山部工場



山本さん

（加茂木工場から東亜企業となり、飛行機のプロペラ材—エゾマツ—を日本ベークライトに送るな

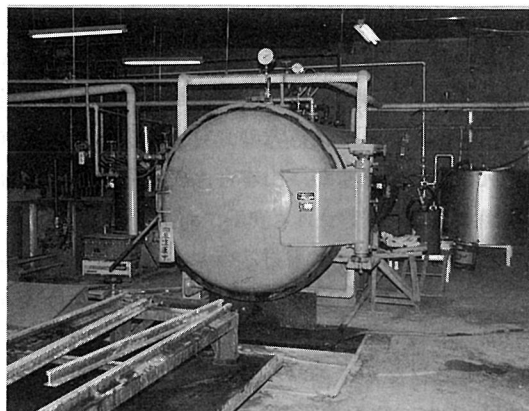


すの子の製造

どしていたが、その後、東洋木材企業となった)を買収合併し、上富良野工場を閉鎖し、43年、この山部に本社を移転しました。このとき、山陽国策パルプさんとの業務提携を図り、広葉樹チップ専門工場の操業を開始しました。昭和50年には、木材資源の有効利用を目的として、北海道工鉦業開発促進条例の指定を受け、機械8台で日産10万本の利久箸工場を増設しました。53年には、住宅のナミダタケ被害対策として防腐工場を設け、防腐処理材を“グリーンエース”名で販売を始めました。58年には1億2千万円かけて最新鋭チップ工場を増設しました。このほか、60石入り乾燥機も導入し、副材利用を目的に割箸のほかに“すの子”、“コーナラック”といった2次加工品も手掛けています。“すの子”は関東、関西に出荷しています。また、今年7月から広葉樹を含め小径木を挽き立てできるように設備を改めました。

上 畑 合併、設備投資、新分野への進出と、経営の拡充に随分力を入れてられましたね。ところで山本さんは先代と同様、山本家に入られて2代目社長として社業を引き継がれたと聞いていますが、ご出身はどちらですか。

山 本 静岡で生まれて東京で育ちました。姉が北大教授のところへ嫁いでおり、先代山本逸太郎の子が北大医学部教授だったことがキッカケになって、山本家の二女に養子縁組みということに



加圧式木材防腐処理装置

なったのです。昭和25年に入社してから林産業一筋で、48年2月から先代の跡を継いで今日に及んでおります。

上 畑 木材、運送のほかに住宅関連会社の社長もつとめておられますね。

山 本 旭川市永山の旭川トヨー住器株式会社は、実兄との関係でサッシの機器やアルミサッシの販売から始めた会社で、現在、こちらの方は精通した専務が頑張ってくれていますから、ほとんどまかせています。

上 畑 上富良野町のカラマツ工場では、大分ご苦労されたと聞いておりますが。

山 本 あれは今では「北海カラマツ企業組合」となっていますが、かつては周辺の森林組合が統合されたときに設けることになっていた工場です。当時、私は条件がきびしいことから随分反対したのですが、いろいろ検討され設立が決まり、操業したものの赤字の連続であったことから、企業組合の形をとって運営しているものです。再出発に当たっては、カラマツ専用の機械設備になおして森林組合から引き受けました。現在、私は役員として参画していますが、直接の責任者にはなっておりません。ここでは年間7~8千m<sup>3</sup>のカラマツ原木を挽き立て、主に梱包材、パレットを生産しています。

## 国際化時代の経営戦略

上 畑 木材関係企業が国際化時代にどのように対応し、どのようにして生き残っていくかの経営戦略は、トップ経営者の先見性・決断力など重い責任といえますが、山本さんのお考えを是非お聞かせ下さい。

### ・原料とその将来展望

山 本 やはり原料問題です。北海道でも40%以上も外材が入っている現実から、国有林、道有林材だけでは当面やっていけない状況と考えます。当社でも40%も外材を入れざるを得なくなっています。米国のスーパー301条などで問題になっていますが、輸入材と国産材の価格差、為替が問題です。特に製材の輸入が増えてくるのが明らかなので、内陸工場がこれにどのように対応するかが大きな問題でしょう。外材主導型時代がここ2～3年続きましたが、井の中の蛙にならないように、確かな情報を徹底して収集していかないと、同業者間でもやっていけなくなると思います。建築工法が変わったり、また、地球規模での環境問題も大きくとり上げられています。住宅建設をみても新設動向には波がありますが、個人住宅では木造が貴重視されるのは変りないでしょう。都市圏の場合には地価のことがあります。交通網の整備によって通勤時間も短縮されて、住宅は郊外へと拡大していくでしょうし、外国の住宅環境などを参考にする面も結構出てくるのではないのでしょうか。

現状では、東京、大阪、北海道の市況はほとんど同じですから、輸送面のコストが問題になっていくわけですが、あきらめムードになる必要はないと思います。最近熱帯雨林や産地国の環境規制の問題などがありますが、外材にかなり頼っている紙パルプなどにしても、今



上 畑 さん

後は閉め出しとまでいなくても、これまでのような形では原料の確保はむずかしいのではないかと思います。

上 畑 つい最近まで、「むこうに行けば物はいくらでもある」と海外視察者は言っていました。量的には心配ないという感覚でしたが、ソ連材の動き、アメリカの資源の実情、東南アジアの資源・産業関連などからすると、国内資源を育てながら有効に使っていくことの意味合いが、より大きくなりますね。

山 本 今は本州で70%、北海道で40%強の外材依存率ですが、これまでに植林した森林の生長、天然の力を活用し育成した広葉樹などから、徐々に外材と国産材の価格差はなくなっていくと考えます。そういつまでも外材が安くは入ってこないでしょう。そうになると、やはり日本のスギ、ヒノキ、北海道の有用広葉樹やエゾ、トド、カラマツなどが主体になっていくと思います。

### ・切望される造林・造材用機械の開発・実用化

上 畑 確かに国産材シェアが上がると思いますが、当分は外材もある量は入ってくるわけで、それをにらんだ低コスト生産や労働の確保・代替などの点からも、機械力導入ということが当面する最大の課題のひとつになってくると思います。

山 本 これは大きい問題だと思いますね。今は何とかやれていますが、条件が良いとはいえない山林部門では、働く人が減少しているのも事実です。今は何とかやれるといっても、年寄りが中心で若い人は皆無といっていいくらいです。とにかく、若者が造林・造材事業に働きに来る、働きやすい条件、魅力ある環境をつくることです。それには、道路網の整備とか機械化などがあげられます。特に機械化は最近一部で具体化しつつあり、良い傾向だと思っています。しかし、海外でこれまでいろいろと見てきましたが、北海道の森林にこれぞという性能のものが、なかなかないので、安くて強力で小型化というのが、北海道の現場での大前提でないのでしょうか。今の造材作業は

ブルが主体となっていますが、仕事が奥地化する中で容易に、しかも高効率で作業できるようでない若い人についてこないし、コストの低減化も期待できないと考えます。

#### ・製品の開発と一層のPR活動で

上 畑 産・学・官が一丸となって様々な形の木材需要拡大運動に取り組んできた結果、学校教育の施設ひとつをとってみてもその成果があらわれており、これは良い傾向だと思います。一例ですが、来年2月完成の旭川農業高校の移転新築校舎は、全国でも屈指の“木材の良さ”を生かしたすばらしい木造建築です。また、木材技術情報の発信基地として今年の6月に、道立林産試験場（旭川市西神楽）構内にオープンした「木と暮らしの情報館」も来館者も大変多く、人々が様々なライフスタイルを構想するとき「木」というフィルターを通して見つめ考えるようになってきたと思います。これは木材需要分野の開拓を考えたとき、木のブームの再来といえるような大変有難い傾向が出てきたと思うのですが、いかがですか。

山 本 おっしゃるとおりで、木材・林産関係者のPRの努力が、じわっと効いてきたのでしょうか。これは一つひとつの顔一本目一を持った木の良さが、質を求める人々の多種多様な志向にぴっ

たり合うものがあるからだと思います。ただ、消費者の気持ちは流動的なところがありますから、“売れるからいいんだ”ではまた需要が落ち込む可能性もあるので、PR活動は様々な手法を取り入れて息長く定着させていくことが重要なことです。林産試験場さんで研究された技術や製品、個々の企業で取り組んでいる技術や製品の重み、それにこれからは特に若い人が木材需要の開拓についても積極的に参加していくことです。若い人の考えと、そうした重みのある技術をジョイントさせながら「木に求められる様々な技術」を開発して行ってほしいと思います。

木材自体は住宅価格に占める割合は低いのですから、安くて住みよい家を提供していく上では、オートメーション化や均質部材生産の方向はどうしても必要でしょうし、木材と他の資材をコンビネートするなど、単に木材だけでない製品の開発も必要と思われます。都会と田舎では違いますが、田舎の我々は都会向けでもやっていける体質にしなければならないと考えます。

上 畑 久しぶりに鮮やかな緑が間近に迫る山部をお訪ねし、ご多忙中にもかかわらず、長時間にわたって貴重なお話を承り、まことに有難うございました。

（文責 山内 賢治）

## 山本木材株式会社

会社創立 大正12年1月  
 役員 代表取締役社長 山本 康夫  
 代表取締役専務 山本 一範  
 取締役 山本 寿美子  
 “ 杉本 信一  
 監査役 大柳 正二  
 “ 山出 善一

本社・工場 北海道富良野市宇山部東19線2254番地  
 電話 (0167) 42-2321  
 F A X (0167) 42-2323

営業所  
 上富良野 空知郡上富良野町栄町1丁目  
 富良野 富良野市若葉町6番7号

営業品目 一般建築用製材  
 防腐土台  
 チップ  
 利久箸、木製スノコの製造販売  
 新建材  
 住宅機器  
 住宅用アルミサッシ販売

#### 系列会社

富良野合同通運株式会社 代表者 山本康夫  
 富良野市朝日町1-34  
 旭川トーヨー住器株式会社 代表者 山本康夫  
 旭川市永山1条3丁目

## 記事の訂正について

本誌9月号の4頁の記事に誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。ここに謹んでお詫び申し上げます。

記

誤

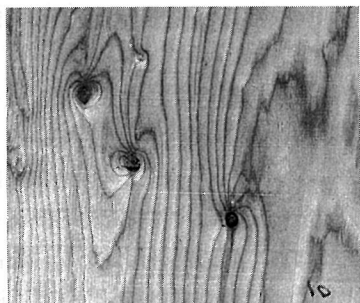


写真3 試験に用いたカラマツ単板の一例

正

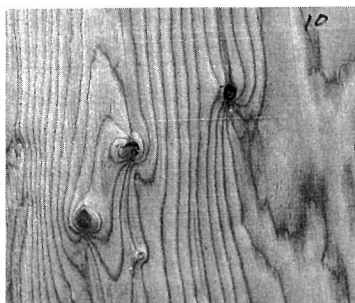


写真3 試験に用いたカラマツ単板の一例

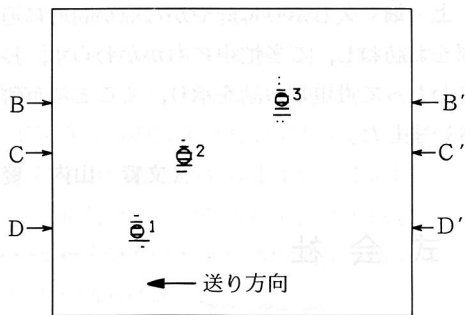


図9 試験材に対比させた認識結果



図9 試験材に対比させた認識結果

### 手引書の頒布について (社)北海道林産技術普及協会

本道では木材・木製品製造業の課題である小径材、針葉樹製材の需要拡大のため、それを活用した新商品・屋外施設等の開発を進めておりますが、最も隘路となっているのは、デザイン面が立ち遅れていることです。ぜひ、下記の手引書をお求めください。

木製屋外施設のデザイン開発報告書 A4版 実費価格 2,000円 送料 210円